

# 教務だより

2014年12月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 過去問の使い方と得意科目の扱い方

茗溪塾塾長 宇野 雅春

受験生はいよいよ本番が近づいてきています。あせりから勉強が思うようにはかどらないこともあるかもしれません。勉強というのは、きちんと歯車がかみ合っていないと「時間」だけかかる意味のないものになってしまいます。

この時期の勉強のポイントの第一は、「過去問」です。自分の受ける学校のレベルにどのいているのかどうかの目安になります。かならず時間を計って、きちんと解きましょう。もしも「レベルの高さ」を感じたら、何が何でももう一度解くか、解説を見たり、先生に質問したりして、「理解」するところまで何とかもっていきましょう。また、学校によっては、出題傾向がある程度決まっている学校もありますので、注意しておきましょう。

たとえば、問題②がいつも難しく、一番最後がかえって簡単な場合があります。知らない問題②でつまづいて以降は手をつけぬまま終わってしまうということもありますので、注意が必要です。

第二に、塾での決められた学習はきちんとやっていこう、ということです。あせってくると、自分の不得意部分だけ何とかしようとしたり、「過去問」だけやっていたらいいと思ったり、自分の「レベル」で一番楽な方向へと走りがちです。

平常授業のなかで、今までのレベルから次のレベルが見えてくることもあるし、「得意」がさらに鍛えられることもあります。この時期、得意な教科はいちだんとレベルが上がってきます。あるいは入試で得意科目の自己ベストを出すことが合格への最短距離であることを忘れないことです。どんなベテランスポーツ選手でも、「自己ベスト」を大会で出せるとはかぎりません。受験も同じです。不得意科目にばかり目をやってしまうと、結局、本番では得意科目でも力を出せず、惨敗することにもなりかねません。塾の授業は、受験に必要なトレーニングを全体に含んでいますので、そこはきちんとやりきりましょう。

そして第三に、時間を上手に使うこと。あれこれ思い悩んだり、それについておしゃべりしたりすることが、直前ではとてももったいない時間です。悩むこともあると思いますが、ここからゴールまでは、迷いを捨てて突き進んでほしいと思います。「合格」までがんばりぬきましょう。

(塾長著書 「合格への道しるべ」より)